

## 主 文

本件上告を棄却する。

## 理 由

弁護人楠瀬正淳、同椎名啓一の上告趣意第一点は、憲法一四条、三一条違反をいうが、被告人に対する本件公訴の提起が憲法一四条、三一条に違反するといえないことは当裁判所の判例（昭和二三年（れ）第四三五号同年一〇月六日大法廷判決・刑集二巻一一号一二七五頁、なお昭和二六年（れ）第五四四号同年九月一四日第二小法廷判決・刑集五巻一〇号一九三三頁、昭和三一年（あ）第二七五三号同三年一〇月二四日第二小法廷判決・刑集一二巻一四号三三八五頁、昭和五五年（あ）第三五三三号同五六年六月二六日第二小法廷判決・刑集三五巻四号四二六頁参照）の趣旨に徴し明らかであるから、所論は理由がなく、その余の点は、事実誤認、単なる法令違反、量刑不当の主張であつて、いずれも適法な上告理由に当たらない。

よつて、刑訴法四〇八条により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり判決する。

昭和六一年七月一八日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	安	岡	満	彦
裁判官	伊	藤	正	己
裁判官	長	島		敦
裁判官	坂	上	壽	夫